



たかといちどいだよ



平成30年2月 第29号

たかといちどい保育園

先日、中央区にあります、人と防災未来センターを6年ぶりに見学してきました。そのことが23年前の1月17日、あの日の出来事を思い出すきっかけになりました。震災といっても、人それぞれ体験も違いますから、いろんな思いがあると思います。私はあの頃は、灘区の山の方に住んでいました。大きな音と家の揺れの恐ろしさを感じた恐怖は忘れられません。その後、同じ灘区の海側にある主人の実家が心配で、1歳・2歳・11歳の娘3人を連れてすぐに車で実家に向かいました。途中はガス臭い、いろんな所で火災が起きている、JR六甲道駅が崩れている、毛布をかぶって歩いている人が大勢いる、何これは…戦争の後のような光景ともいえるほど悲惨な状況で、体の震えが止まりませんでした。いつもなら10分で行ける実家が30分以上かかりました。行くと実家がなくなっており、見たとたん言葉を失いました。崩れている実家を見た時の悲しさは忘れられません。主人が近くにいた人と助け合い、隣の人を先に救助し、その後父母の救助に6時間かかりました。その時、中学生何人かが「手伝いましょうか」と声を掛けてくれ、一緒にがれきを除けてくれたことを覚えています。周りでは、おそらく亡くなっていたかと思う方を戸板で病院に運んでいました。ピアノの下敷きになった4歳の孫を病院で見ってもらうために必死で病院巡りをしている両親のかわりに、下の子をおんぶしてあげてお婆ちゃんが、「おしめがないので貸してください」と頼みに来られ、その時何枚か紙おむつを渡したように思います。あの時からみんなが協力して生きてきたこと、みんなの助け合いで人間の優しさを感じたこと、生かされていることの命の大切さ、その後みんなの命が誕生したことなどを、これからも子どもたちに伝えていきたいと思っています。先月の1月17日の避難訓練の時の震災の話を、子どもたちは真剣に聞いていました。年月は経っていきますが、震災を忘れない為にも、助け合いや命の尊さなどを伝え続ける大切さを感じています。 越智るみ子

二次感染に気をつけよう！

インフルエンザをはじめとして、多くの感染症が流行する季節になりました。冬場に流行するウイルス性胃腸炎はノロウイルスやアデノウイルスなどによって感染します。ご家庭でも二次感染予防のため、嘔吐物処理にご留意ください。

嘔吐物処理の仕方

—準備物—

- 使い捨て手袋 2組
- 使い捨てエプロン（袖付きなら尚良い）
- マスク 2枚
- ゴミ袋 2枚
- ペーパータオル又は新聞紙
- 0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液（ハイターなどの塩素系漂白剤）

- ①窓を開けて換気を行う。使い捨てエプロンと手袋2組、マスク2枚を着ける。
 - ②嘔吐物に新聞紙又はペーパータオルをかぶせてその上から0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液をかける。外から中へ向かって取り除き、2枚重ねにしたゴミ袋に入れる。その後、一枚目の手袋を捨てる。そこに0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液をかけ入れ、中側の袋を密封する。（この時袋の空気は抜かない）
 - ③嘔吐した場所を中心に新聞紙を広げ、0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液をかけてしみこませて10分間放置する。半径1.5メートルもしっかり消毒する。（床は外から中へ、壁は上から下へ拭く）
 - ④エプロン、手袋、マスクを外す。袋に入れ、再度0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液をかけて、袋を密封する。しっかり、手洗いをする。
- ※嘔吐物の付いた服は85℃以上の熱湯に1分間つけてから洗濯する。



保育園では室内の掃除や玩具の消毒を丁寧に行ったり、次亜塩素酸空間除菌脱臭機「ジアイーノ」をつけたりして、感染拡大予防に努めています。また、子どもたちにも手洗いの大切さを伝え、戸外から帰った後には手洗い・うがいを丁寧に行えるようにしています。今後も一人ひとりの体調に留意し、元気に過ごせるようにしていきます。

谷川 美里



あさひぐみ



あさひぐみでは、朝の集まりの時間に歌をうたっています。以前は、歌をうたうと体を揺らしたり、保育士の真似をして手を動かしたりと、歌をうたってもらうことを喜んでいましたが、最近では「♪（おは）よう～」や「♪（し）て～」など、簡単な部分を一緒に口ずさんだり、「歌って」と要求したりする姿が多く見られるようになりました。今後も、歌やふれあいあそび、わらべうた遊びを通して、保育士とのふれあいを十分に楽しめるよう関わっていきます。

生活面では、上着や靴下の着脱など、積極的にやってみようとする様子が見られ、戸外から戻った際に、「靴下脱ぎ脱ぎするよ～」と言葉をかけると、自分で靴下を脱ごうと頑張っています。月齢の高いお友だちは自分で靴下を引っ張り、上手に脱げるようになってきましたが、月齢の低いお友だちはまだ難しいので、様子を見守りながら援助し、自分でできた喜びを感じられるようにしたいと思います。

まだまだ寒い日が続くので、室温や服装の調節をして快適に過ごせるよう配慮していきます。また、上る、ぶら下がる、またぐなど、手足を十分に使って遊べるようにしたいと思います。

河原 彩夏



ひかりぐみ



先月は、凧あげやカルタ等のお正月あそびにたくさん触れました。凧はペンを上手に使って模様を描いたり、シールを貼ったりして楽しみながら作っていました。自分で作った事に喜びを感じ、「みて、つくったよ」と言って見せる子どもの姿や、「はやく、とばしたい」と作っている時からワクワクしている様子が見られました。また、カルタでは絵カードを「パン！」と叩き嬉しそうに取る子どもたち。一番に取れた時の得意そうな表情が微笑ましかったです。

生活面では、身の回りの事を「じぶんでする」と言う意欲的な姿が見られます。鼻水が出ている子どもが増えてきましたが、「せんせい、はなでた」と知らせたり、自分でティッシュを取りに行き、拭こうとしたりし、清潔にしようとする意識が高まってきているようです。今後も身の回りのことを自分でしようとするという意欲的な姿を認め、必要に応じて手助けをする事で、やる気につなげていきたいと思っています。

今月は、絵本を通して言葉のやりとりをしながら、ごっこ遊びを楽しめるようにしたいと思います。また、様々な体育遊具を使い、のびのびと体を動かして遊べるようにしていきます。

植田 絵理



2月の予定

節分	2日（金）	避難訓練	5日（月）
体育あそび	8日・22日（木）	誕生会	9日（金）
わくわく発表会①	24日（土）	わくわく発表会②	27日（火）
発育測定	26日（月）～28日（水）		

※3月20日（火）に卒園式を予定しています。5歳児の保護者の方参加行事となります。



にじぐみ



先月は、カルタや羽根つきなどのお正月遊びを楽しみました。カルタは普段も遊んでいるので、保育室のいろいろなところに隠れているカードを探すというルールに変えました。たくさん取ろうと必死な様子や、「〇〇ちゃんここにあるよ」と伝え合い、ルールをしっかりと理解して楽しんでいる姿が見られました。今後も友だち同士で遊べる活動をたくさん取り入れ、一人ひとりの優しさや思いやりを大切に、関わりを増やしていきたいと思います。

食育でお箸の使い方を教えてもらいました。その日から給食の時にも一人ひとりの様子に合わせてお箸を使って食べるようにしています。なかなか上手に持つことが難しいようで、「こう?」「できないー」と言う言葉も聞こえてきましたが、自分のつかめるものを見つけて意欲的に取り組もうとする子どもたちでした。側について一緒に持ったり支えたりすることで、つかめる子どもも増え、「みてみてつかめたよ!」や「おはしでたべてる!」など嬉しそうに保育士に伝える姿も見られるようになりました。お箸を使う遊びも取り入れ、少しずつ慣れていけるようにしていきます。

今月は、ふれあい遊びや一人ひとりが音楽に合わせて好きなものになりきる遊びをたくさん行い、自由に表現することを十分に楽しめるようにしていこうと考えています。菅俣 楓音



きりんグループ



子どもたちには日々の生活の中で、鞆やロッカーの中の整理をするよう伝えています。遊びに夢中になり、仕度や整理を忘れていた子どももいますが、保育士の一声で、「かばんのなかをきれいにしよう!」とタオルや服を丁寧に畳み、進んで手を動かしています。子ども同士で声をかけ合っていることもあります。その姿を十分に認めていき、しっかりと習慣付くようにしていきたいと思います。

1月は色々な正月遊びをしました。凧揚げ・かるた等、興味を持って楽しむ姿が見られました。その中で、福笑いを一から作ったのですが、子どもたちで考えて工夫しながら輪郭やパーツを作っていました。チームごとにユニークな顔が完成し、いざ、福笑いに挑戦すると、「うわ~!へんなかお!」「むずかしいけどおもしろいな~!」と大盛り上がりでした。他クラスの友だちと遊んだ際にも、「おもしろいから、やってみて」と遊び方を丁寧に教えている姿が見られました。子どもたちが想像し、自由に製作できるように、今後も環境を整えていこうと考えています。

2月は、進級に向けて意識していけるように、どのような、そらぐみ・ゆめぐみ・1年生になりたいのか、子どもたちと話し合っていこうと思っています。そして、身体を思い切り動かす活動も取り入れながら、メリハリを付けられるよう配慮していきます。中丁 紗穂



ぞうグループ



先月はみんなで洗濯ごっこをして遊びました。日頃よりままごとコーナーで、エプロンや三角巾を干して「おせんたくするよ~」と楽しんでいた子どもたち。「もっとたくさんほしたい~」「いろんなようぶくがほしい~」という声からこのごっこ遊びがスタートしました。洋服のデザインを考え、洗濯するものを作るところから始めました。「ズボンはこのなまようしよう」「てぶくろもおせんたくするね」「たくさんいろのあるぶくをつくろう」と一人ひとりイメージを広げ、自分なりの干したいものを作る姿が見られました。「こんなかたちにきってみたよ」「おおきくようぶくができたよ~」と作ったものを嬉しそうに見せ合う姿が見ていて微笑ましかったです。洗濯ごっこ当日は、絵の具で色付けしたものを好きな場所に自由に干して遊びました。「おせんたくものがいっぱいだね~」「ここにもほせるよ~」「かわいいのがいっぱい~」と、自分たちで一から作った物を見ながら、友だちとのやりとりも楽しんでいました。

生活面では、1日の流れを予めホワイトボードに書いておくことで、それを見て「おかたづけはながいはり〇〇だよ」「かたづけがおわったらトイレに行く」「きょうは〇〇するみたいだよ」と1日の生活に見通しを立て、自分たちで考えて動こうとする姿が多く見られます。今後も流れを予め書いておくという事を継続し、子どもたちが自分で見て、自分で考え、また分からないことは聞くという、**“見る、考える、聞く”**経験を生活の中で大切にしていきたいと思っています。今月は、様々な廃材をつかって乗り物づくりをし、保育室中を走らせて遊びたいと考えています。長田 麻里